

【ポスターセッション】

老人大学に参加した高齢者の旅行に関する意識調査

和歌山県立医科大学保健看護学部

水主千鶴子 (5156)

キーワード：高齢者・老人大学・旅行

1. 研究目的

グローバル化時代によって日帰り旅行や宿泊旅行、海外旅行など旅行形態が変化している。わが国の高齢化率は、2008年に21.1%を記録し高齢者が増加している。最近の高齢者は、時間の余裕と健康面の余裕を増しているため今後ますます高齢者の旅行の増加が予想される。旅行は、高齢者の1つの自己実現であり、家族や仲間との交流が深まり満足感や幸福感が得られることから高齢者のQOL向上に役立つと考えられる。本研究は、老人大学に参加した高齢者の旅行の現状と旅行に関する意識を知ることであり、高齢者の旅行にはどのような課題があるかを考察することを目的とした。

2. 研究の視点および方法

高齢者の旅行には、健康状態や就業状況、一緒に旅行する家族や仲間の存在などが大きく影響する。わが国において高齢者の旅行を支援する体制がまだ未整備である。多くの高齢者が旅行をすることができるようになり、自己実現がなされQOLが向上であろうという観点に立ち研究が実施された。

調査対象は、K市で開催された老人大学に参加した高齢者137名である。調査方法は、無記名自記式質問紙を用いた集合調査であり、講演終了後に回収した。調査期間は、平成21年5月である。有効回収率は、87.6%（120名）である。調査内容は、研究者が自分で作成したものであり次の8項目である。①健康状態、②旅行が好きか、③去年1年間（平成20年4月～平成21年3月）に旅行したか、④去年1年間の旅行回数、⑤去年1年間に誰と旅行したか、⑥今後、旅行するにあたり体の不安があるか⑦旅行するために何が必要と思うか、⑧何歳ぐらいまで旅行したいか（国内旅行、海外旅行）である。

3. 倫理的配慮

調査にあたり老人大学に参加した高齢者にこの研究の目的と研究方法について説明をした。この研究に参加するかは本人の自由であり、拒否しても何の不利益も被らないことを伝えた。この研究によって得られる研究対象者の個人情報保護され、この研究以外の目的で使用されることがないことを伝えた。

4. 研究結果

K市の老人大学は、入学資格が60歳以上の老人クラブ会員で意欲的で向上心、研究心のある者となっている。この老人大学は、平成21年5月から平成21年2月まで毎月1回、

計 10 回開催される。老人大学の参加した者のうち回答者は、60 歳代 24 名、70 歳代 60 名、80 歳代 24 名の合計 108 名であった。男性が 25.9% (28 名) 女性が 74.1% (80 名) であり女性の方が多かった。仕事に従事している者が常勤 (農業も含む) 20.4%、非常勤が 6.5% であり、仕事に従事していない者は 73.1% であり、仕事に従事していない者の方が多かった。

健康状態については、とても良い 9.3%、良い 39.5%。まあ良い 41.0%、あまり良くない 10.2%、良くない 0% であり、老人大学の参加者の健康状態は良好であることがわかった。旅行が好きかについては、とても好き 13.9%、好き 46.3%、まあ好き 34.2%、あまり好きでない 2.9%、好きでない 2.7% であり、老人大学の参加者は旅行が好きな者が多いことがわかった。

去年 1 年間に旅行をしたかについては、はい 89.8%、いいえ 10.2% であり老人大学の参加者は約 9 割の者が旅行していることがわかった。国内旅行をした者を年代別に分けると 60 歳代では日帰り旅行平均 2.0 回、宿泊旅行平均 1.8 回、70 歳代では日帰り旅行平均 2.4 回、宿泊旅行平均 1.5 回、80 歳代では日帰り旅行平均 3.2 回、宿泊旅行平均 1.3 回であった。老人大学の参加者は、年齢が高くなるにつれ宿泊旅行から日帰り旅行へ変化していることがわかった。海外旅行した者 (1 回 6 名、2 回 2 名) は 8.2% と少なかった。

去年 1 年間に一緒に旅行した人を多かった順で述べると、60 歳代では友人、仲間、配偶者、70 歳代では配偶者、仲間、友人、80 歳代では子ども、友人、仲間であった。老人クラブの参加者は、高齢になっても友人や仲間との交流が続いていることがわかった。

今後、旅行するときの体の不安については、60 歳代ではあまり不安がない 45.8%、少し不安 29.2%、不安なし 25.0%、70 歳代ではあまり不安がない 40.0%、少し不安 36.7%、不安なし 20.0%、とても不安 3.3%、80 歳代では少し不安 54.2%、あまり不安がない 20.8%、不安なし 12.5%、とても不安 12.5% であった。老人クラブの参加者は、高齢になるにつれ旅行するにあたり体の不安を感じていることがわかった。その不安を軽減するためには、国内・国外の旅行地でも安心して医療機関を受診できる体制や医師や看護師の同行、観光医学講座を受講し緊急時対応が可能なスタッフの育成などが今後の課題である。また、介護者が安心して旅行に行けるようなショートステイの増床も今後の課題である。

旅行するにあたり必要なこととして多く上げられたのは、60 歳代、70 歳代、80 歳代ともに健康、体力、お金、仲間であった。老人クラブの参加者は、旅行するには健康と体力が必要であると考えていることがわかった。高齢者の旅行には、高齢者自身が健康管理と体力の維持できるような支援と仲間づくりの支援が必要であることが示唆された。

何歳ぐらいまで旅行をしたいかについては、国内旅行では 60 歳代平均 77.5 歳、70 歳代平均 81.0 歳、80 歳代平均 83.6 歳であった。海外旅行で 60 歳代平均 72.2 歳、70 歳代平均 78.8 歳、80 歳代 85.0 歳であった。老人クラブの参加者は、高齢になっても旅行をしたいと思っており、この気持ちを持ち続けてもらえるように支援していくことが重要である